

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA



第172回定期演奏会
The 172nd Regular Concert

クリティックス・プロジェクト・シリーズII

石田一志

祈りと踊り

Critics Project Series II ISHIDA Kazushi
Praying, dancing

2003年9月19日[金]
午後7時開演(午後6時30分開場)
津田ホール

：主催：特定非営利活動法人日本音楽集団
：助成：平成15年度文化庁芸術団体重点支援事業
■日本音楽集団：<http://www.promusica.or.jp/> <http://www.wahoo-net.com/promusica/>
E-mail office@promusica.or.jp





二つの舞曲 (1970年) 長沢勝俊作曲

NAGASAWA Katsutoshi : Two Dances

[笛] 竹井誠 [尺八] I 米澤浩・原郷隆 II 砂川憲和・渡辺淳 III 加藤秀和・元永拓
[三味線] 工藤哲子・穂積大志 [琵琶] 田原順子
[箏] I 桜井智永・田村法子 II 久東寿子・久本桂子 III 三宅礼子・渡辺正子
[十七絃] 大島菜穂子・丸岡映美
[打楽器] 若月宣宏・多田恵子・渡邊理恵
[指揮] 田村拓男



覘 (1992年) 西村朗作曲

NISHIMURA Akira : Kamunagi

[十七絃] 宮越圭子 [打楽器] 高橋明邦



邦楽器のための「ギド(祈禱)」(委嘱・初演) 鄭台鳳(チョン・テボン)作曲

Chung Tae-bong : "Gido" for Japanese Instruments

[能管] I 西川浩平 II 竹井誠 [笙] 真鍋尚之 [箏] 西原祐二
[尺八] I 添川浩史 II 加藤秀和
[三味線] 杵家七三 [琵琶] 田原順子 [二十絃箏] I 熊沢栄利子 II 早川智子
[打楽器] I 尾崎太一 II 望月太喜之丞 III 多田恵子
[指揮] 本名徹次(客演)

休憩



片足鳥居の映像 (1971年) 佐藤敏直作曲

SATO Toshihiro : Impression of a One-Pole Torii

[尺八独奏] 米澤浩



コンチェルト・レクイエム

~二十絃箏と邦楽器群のための (1981年) 三木稔作曲

MIKI Minoru : Concerto Requiem for 20-Stringed Koto and Japanese Instruments

[二十絃箏独奏] 吉村七重

[笛] 西川浩平・竹井誠
[尺八] I 添川浩史 II 阪口夕山 III 砂川憲和 IV 加藤秀和 V 元永拓 VI 渡辺淳
[胡弓] 多々良香保里 [三味線] 山崎千鶴子 [琵琶] 首藤久美子
[二十絃箏] 山田明美・桜井智永 [十七絃] 城ヶ崎美保・久本桂子
[打楽器] 尾崎太一・望月太喜之丞・若月宣宏・多田恵子
[指揮] 本名徹次(客演)

祈りと踊り

= Praying, Dancing

音楽の原点としての「祈り」と「踊り」がテーマです。

宗教を唯一の精神生活とした古代人のいわゆる芸術行為は、すべからず宗教に結びついていました。恐らく現在でも、深い祈りを込めた歌や旋律、真剣な祈祷舞踏の精神に立った律動は、娯乐的官能的な性格のものよりも、いっそう人の心に響くのではないかと思います。

ここでは現代邦楽の歴史を俯瞰しながら、とくに旋律性と律動性においてオリジナリティーが高く、宗教的感情に深く根ざした音楽を選曲しました。

昏迷の21世紀、改めて音楽の精神を今一度、原点から再考しようという意図です。

一、二つの舞曲 (1970) 長沢勝俊作曲

長沢勝俊 (1922-) の音楽は、いわば日本の「常民」の心を歌っていると思います。常民は生きるすべを知り、たくましい存在です。その生きるすべには、彼らの率直な喜怒哀楽の表現である歌や踊りも含まれています。

これはそのような常民の心を想起させる「歌」や「踊り」による、邦楽器オーケストラのための作品です。二つの楽章からなり、邦楽器アンサンブルの魅力に満ちています。

尺八の深い悲しみを湛えた旋律で始まる第一楽章は、次第に緊迫感を加え、速いテンポの掛け合いを経て、ついに力強い総奏に達します。悲しみに打ち勝つたくましい抵抗力といえましょうか。そして鈴の音に導かれてゆっくりと消えるように終わります。

拍子木が第二楽章の開始を告げます。この楽章は一転して、激しい群舞の饗宴です。そして澁刺としたリズムが曲を締めくくります。

二、颯 (1992) 西村朗作曲

西村朗 (1953-) は、アジア各地の民族音楽、民俗芸能の特徴を抽出・展開してアジアの音宇宙を描いてきました。とくに、東アジアに共通するヘテロフォニーを手がかりにした数々のオーケストラ作品は高い評価を得ており、尾高賞をすでに三度も受賞しています。邦楽器作品も数多く、ひろくアジアを展望した独特の視点が効果をあげています。

これは邦楽器のなかでは強靱な音の性格をもつ十七絃に打楽器を加えた舞曲です。シャーマニズムの音楽の伝統を伝える、韓国の巫女の舞をイメージしており、韓国民俗音楽のカヤグム散調、長短リズムが一部取り入れられています。

三、ギド(祈祷) (2003) 鄭台鳳作曲

今回、韓国作曲界の中核にある鄭台鳳 (Chung Tae-bong 1952-) さんに新作をお願いしました。鄭台鳳さんは、国立ソウル大学校音楽大学、同大学院卒業後、カールスルーエ音楽大学 (博士課程) を修了し、現在、母校の教授で作曲科長を務めておられます。韓国の国楽のための作品もあり、その経験を邦楽器アンサンブルに活かしてもらおうと考えたのです。鄭台鳳さんは、この「ギド(祈祷)」に人類の永遠なる平和を切に願う気持ちを込めた、とされています。

四、片足鳥居の映像(1971)佐藤敏直作曲

佐藤敏直(1936-2002)は、日本的感性を重視した作曲家でした。しかし、日本の伝統音楽を素材にすることはしませんでした。限られた数の邦楽器作品では1969年の「ディヴェルティメント」が、日本音楽集団のレパートリーとして定着しています。これはその2年後に書かれた作曲家唯一の独奏尺八のための作品です。原爆で破壊されて片足のまま立ち続ける長崎の山王神社の鳥居は、広島原爆ドームとともに、人類史上の特別な蛮行・愚行を伝える負のモニュメントとして知られています。この鳥居を見ての作曲者の怒りや悲しみ、そして祈りが深い歌に託されている尺八本曲です。

五、コンチェルト・レクイエム(1981)三木稔作曲

邦楽器と洋楽器による協奏様式による大規模な3部作「鳳凰三連」が完成した三木稔(1930-)が、新境地に立って作曲した二十絃と邦楽器アンサンブルのための鎮魂協奏曲です。同じ鎮魂協奏曲として知られるアルバン・ベルクのヴァイオリン協奏曲と同様に、独奏楽器の多面的な魅力を最大限に発揮している作品で、とくに二回目の長大な二十絃のカデンツァは聞きどころです。

作風からいうと、美しい道行きで知られるオペラ「じょうり」(1985)を予感させるように、死に向かつての「情感と無常感」の心のゆれを率直に描いています。死の避けがたさを、土に還るといふ日本の伝統的な考え方に立って、自然の石による打拍音を音楽のなかに位置づけたところが新鮮です。

クリティックス・プロジェクト・シリーズII

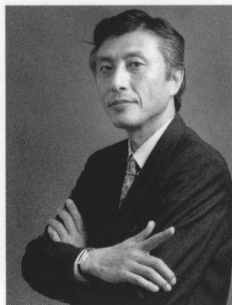
石田一志～新春・産霊祭

第174回定期演奏会

2004年1月23日(金)津田ホール

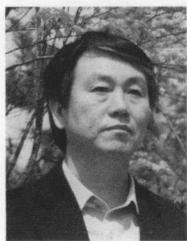
- 一、 Double Duo (ディエゴ・ルズリアガ)
- 二、 箏四重奏曲「さすらい」(シモン・ベルトラン)
- 三、 In C (テリー・ライリー)
- 四、 尺八本曲・Once in Arcadia for Shakuhachi (ユキ・モリモト)
- 五、 金雀(譚盾)
- 六、 庭央(Theo)(委嘱・初演、ユキ・モリモト)

(順不同)



石田一志 (Kazushi Ishida 1946-)

音楽評論家。武蔵野音楽大学大学院修。現代音楽を中心に研究・評論活動を行う。また、国際交流基金などの派遣で、欧米、インド、中国、韓国、ロシアなどで日本の現代音楽と伝統音楽を紹介している。現在、ミュージック・ペンクラブ・ジャパン（音楽執筆者協議会）会長、日本ロシア音楽家協会運営委員長、国際現代琵琶楽会理事長、日本アルバン・ベルク協会常務理事。出光賞（学術研究部門担当）選考委員、日本音楽コンクール（作曲部門担当）審査員。くらしき作陽大学客員教授。武蔵野音大、玉川大学講師。



鄭台鳳 (Chung Tae-bong 1952-)

国立ソウル大学校音楽大学、同大学院卒業後、カールスルーエ音楽大学（博士課程）を修了。現在、母校の教授で作曲科長。「バン・ミュージック・フェスティバル」芸術監督、国際現代音楽協会韓国副支部長、アジア作曲家連盟理事、月刊「音楽春秋」編集委員。1999年に大韓民国作曲賞を受賞。東洋思想にもとづき、韓国的な情緒の現代的表現を志向している作曲家である。



本名徹次 (Tetsuji Honna Conductor)

1985年東京国際音楽コンクール最高位、90年トスカニーニ国際指揮者コンクール第2位、92年ブダペスト国際指揮者コンクール第1位と輝かしい賞歴を誇り、これまでに大阪シフォニカー交響楽団常任指揮者、名古屋フィルハーモニー交響楽団客演常任指揮者を歴任。現在は「しらかわシフォニア」指揮者、「オーケストラ・ニッポニカ」音楽監督を務める。海外ではハンガリー国立響、フィルハーモニア管、ザルツブルグ・モーツァルテウム管、ネザールランド・フィル、ブルノ・フィル、プラハ放送響等に客演。2001年よりベトナム国立交響楽団アップグレーディング・プロジェクトのミュージックアドバイザーとして活躍している。

日本音楽集団第27次海外公演 (エクアドル)

エクアドル出身の作曲家Diego LUZURIAGA (ディエゴ・ルズリアガ) 氏の作品「ダブル・デュオ」(1996年委嘱初演、編成: 笛2、打楽器2) が縁をとりもって日本音楽集団初のエクアドル公演が実現することになりました。

今年3月まで駐日エクアドル大使を勤めておられたマルセロ・アピラ氏は日本音楽集団の定期演奏会にしばしば足を運ばれていましたが、この曲との出会いから、昨年3月のエクアドル大統領来日の際のメインプログラムとして記念コンサートを開かれた上に、今度は遂に本国エクアドルでの文化交流促進のために奔走されたのでした。

【日程】 9月23日 24日 25日 27日
 ・グアヤキル市-ワークショップ ・グアヤキル市-コンサート ・マンタ市-コンサート ・キト市-コンサート

【参加メンバー】
 西川浩平 (笛)、砂川憲和 (笛・尺八)、真鍋尚之 (笙)、山崎千鶴子 (三味線)、
 山田明美 (箏)、望月太喜之丞 (打楽器)、田村拓男 (指揮・打楽器)、
 奈良英子 (ピアノ)、古川尚人 (楽器) 以上9名

【主なプログラム】
 「ダブル・デュオ」/ディエゴ・ルズリアガ、「呼吸」/真鍋尚之、「去来」/杵屋正邦、
 「Phonospher」/松尾祐孝、「芽生え」/三木稔、「みだれ」、
 「歌舞伎音楽より大薩摩、狂い五段」、「アルトウラス」/ディエゴ・ルズリアガ、
 日本のメロディー、エクアドル民謡ほか。

【助成】 文化庁・国際交流基金・(財)野村国際文化財団・(財)花王芸術・科学財団

日本音楽集団40周年記念作曲コンクール

Pro Musica Nipponia the 40th anniversary composition competition

日本音楽集団では、創立40周年を記念した作曲コンクールを行うこととし、作曲賞を創設します。募集要項の詳細については、チラシ・HPをご覧ください。事務局へお問い合わせください。

- 応募作品 日本の伝統楽器のための合奏作品。楽器編成は日本音楽集団の楽器から選択し、4人から10人程度までとする。
- 審査員 西村朗・日本音楽集団
- 賞・賞金 第1位 50万円 第2位 20万円
- 応募締切り 2004年8月31日(当日消印有効)

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動を目指したく、ご協力お願い申し上げます。募集の詳細はチラシをご参照ください。

賛助会員 (五十音順)

法人……	個人……	今村厚子	岸 彰則	田原たま	浜田靖子	渡辺ハル
(株)全音楽譜出版社	青柳 堯	今村文彦	小泉和子	手塚愛子	古川羽衣山	渡辺治子
(株)宮本卯之助商店	新井克輔	大木紀史	後藤陽子	藤山雅弘	本田 実	Andrew
NPOトリトン・アーツ・	飯塚絹子	大関富枝	白水昭彦	中島靖子	水野正徳	MacGregor
ネットワーク	飯吉正山	太田颯衣	杉田和繁	中島康子	森山俊雄	
	伊藤美恵子	川 壁 正	関 厚 雄	野原清子	波辺京子	

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033
ホームページURL <http://www.promusica.or.jp/> E-Mail office@promusica.or.jp

箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、
楽器の本質を追究した箏

十七絃箏

二十絃箏

二十五絃箏

Tokyo



時を超え心に残る音づくり

有限会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL03(3792) 8481 FAX03(3792) 8437
E-mail: kinkodo@v004.vaio.ne.jp